

協会設立5周年記念行事 第6回国際シンポジウム

特集



第6回国際シンポジウムで講演するアンドリュースRIMS理事長。左端は、同時通訳する前川理事長

「成功するリスクマネジャーの条件」

■特別講師：RIMS理事長 ロジャー・L・アンドリュース
2001年3月16日 東京・青山ダイヤモンドホール

◆RIMSとの出会い

今回、RIMSで89番目の支部——北米以外で設立された最初の支部——の創設をお知らせすることは、私にとって大きな誇りです。そして、今後日本RIMS支部が急速に発展し、東京、大阪その他の主要都市に支部を2つ、3つと分ける必要がでてくるのではないかと予想しています。その際には、RIMS職員およびボランティアができるだけの支援を行う準備があるということを知っておいていただきたいと思います。

私は、大学卒業後、ロースクールの資金を蓄えるためにトラベラーズ保険会社にてアンダーライターの職務に就きました。同社での経験とその後ロースクールで法学の学位を取得したことが、リスクマネジメントにかかわる最初の1歩でした。それから間もなく、より有能で知識のあるリスクマネジャーを目指す

ためにRIMSの会員となり、早いものであれからもう18年以上の歳月が流れようとしています。

その間、RIMSの会員としてリスクマネジメントに関する知識を深め、実際にリスクマネジメント部門の部長としてメイン州、食品雑貨チェーン店経営会社、海軍向け巡洋艦・駆逐艦メーカー、そして現在勤めるE・D・ブラード社に至るまで、実にさまざまな業種のリスクマネジメントに取り組んでまいりました。

◆リスクコストの削減で大きな成果を上げる

E・D・ブラード社は、ケンタッキー州にある保護用・消防士用ヘルメットその他呼吸器具の大手メーカーで、私は91年から同社のリスクマネジメントを担当しております。

入社当時の同社のリスクコストは平均して売上高の6～8%でした。これは企業が負担する金額として

第6回国際シンポジウムは、リスクマネジメント協会5周年を記念して、アメリカからロジャー・L・アンドリュースRIMS理事長を招聘して開催されました。ここでは、当日の講演内容を要約してご紹介します。

はかなり大きな数字です。リスクコストの大半は、自家保険で留保できる範囲内の製造物責任請求のコストと、それを超過した場合の第2次製造物責任保険のコストでした。周知の通り、アメリカでは訴訟が大きなビジネスです。そのため、メーカーの長期存続には、しばしば多種多様なリスクをどのように管理していくかが焦点となります。同社もこれまで多くの訴訟に苦慮してきました。

そこで、私はこの10年間に、①第2次保険に関するマーケティングとアンダーライターへの当社に関する教育を適切に行う、②製造過程における品質管理を徹底する、③警告が明瞭で完璧であることを確かめるために、全製品の説明書の点検にリスクマネジメントを関与させる、④損害賠償請求や裁判に対する積極的な防御を行う、⑤メリットのない賠償請求には応じない、などの方策を実施してきました。

◆収益貢献でリスクマネジメントの価値を実証

その結果、現在では同社のリスクコストは売上高



「リスクの削減で収益向上に貢献することが、リスクマネジメントを定着させる最も効果的な方法である」との趣旨を力説するアンドリュースRIMS理事長

の0.5%未満にまで軽減されました。そして、今では上級経営者もリスクマネジメントが企業にもたらす価値について十分気づき、リスクマネジメントは上級経営者から従業員に至るまで、社内に定着しています。

これまで、それぞれ業種の異なるユニークな挑戦に直面してきた経験から、リスクマネジメント・プログラムの価値を実証したり、数字で示すことは可能であるとも実用であるとも思いませんが、適切なリスクマネジメント・プログラムの価値はコストを大きく上回るものと確信しています。

私のサクセス・ストーリーは、次の2点に集約されます。まず、①キャリア形成において、RIMSが私のリスクマネジメント教育に果たした役割が大きな価値を持っていること、そして、②もし専門家として成長を続け、企業の上級経営者に認められ続けるのであれば、リスクマネジメントによってどのような事を成し遂げられるかを証明することができるということです。ご静聴どうもありがとうございました。



シンポジウムの会場に向かうアンドリュース氏夫妻(中央)